

ペナウデオ



フィンランド
(1999年~)

PENAUDIO



● 試聴モデル
SARA S
¥929,250 / ペア

● 型式:2.5ウェイ、リフレックス・ロード、フロア型 ● ユニット・トゥイーター→20mm 磁性流体冷却式布地ドーム、ミッドレンジ / ウーファー→160mm PENAUDIO 特別仕様マグネシウムコーン重量級銅リング(ポールピース上下) ● クロスオーバー:300Hz、4.5kHz ● 公称インピーダンス:4Ω (3.8-15Ω) ● 推奨アンプ出力:40W以上 ● サイズ:165W×1130H×290Dmm ● 質量:25kg ● 取り扱い:シーエスフィールド(株)

本誌が注目する
世界のスピーカー
ブランド

15

● ペナウデオとは? 手作りにも似た 一貫した感性とポリシー

ペナウデオは1999年に設立されたフィンランドのスピーカーブランドである。サミ・ペンテイヤという若いエンジニアによるもので、ベースやギターなどさまざまな楽器を演奏するミュージシャンとしての感性から、スピーカーのチューニングを重ねて得られた結果を製品化したものだ。

初の製品CHARISMAはブックシェルフ・タイプで、ソフトドーム・トゥイーターと12cmウーファアの2ウェイ。ユニットにはいずれもSEAS製の同社特別モデルを使用している。ユニークなのはそのキャビネット。薄く切った多数を積層としたものである。北欧らしいデザインと共に、自然な響きや環境への配慮も含めた設計だという。

成が引き継がれている。CHARISMA専用のサブウーファークHARRAや3ウェイ・トゥールボイのSERENADEも発売されたが、いずれも現在は生産終了。

多品種・大量生産とは違う手作りにも似た一貫した感性とポリシーが、その魅力といっている。

● 代表モデルを聴く 透明度が高く弾力のある厚み 充実した再現性を聴かせる

ペナウデオの音は、基本的にブックシェルフであると言っている。鳴り方が小さいという意味ではなく、小型2ウェイでの再現性をベースとして音が決定されているように思えるのである。だからフロア型となっても、出てくる音の方向性に相違はない。

構成は2.5ウェイである。トゥイーターは20mmのソフトドーム。磁気回路には磁性流体を封入している。ミッドレンジとウーファーは16cmのマグネシウムコーンで、磁極の上下に重量級の銅リングを装着し、放射状の補強エッジを加えている。いずれもSEAS製で、ペナウデオ用に特別仕様としたユニットである。

クロスオーバーは4.5kHzだが、ウーファーは300Hzから減衰させ、これで2.5ウェイとなる仕組みだ。

こうしたことからでも分かるように、サイズに合ったレスポンスを低域の付加によって均一化した設計と言っている。実際の音も透明度が高く、しかも弾力のある厚みに富んでいる。ちょうどCENYAの音調を、ひと回り大きくした印象である。アカペラやジャズなど大変充実し、手触りが生き生きとしている。

ペナウデオが使用しているアンプ、ケーブル



ペナウデオが音決めにメインで使用しているケーブルは、同じく北欧に位置するスウェーデンのヨルマ・デザインのもの。最高グレードのマテリアルを使用した上で、厳格なテストの末に送り出されるハイエンド・ケーブルだ。もちろん、これ以外にも多数組み合わせで音質は決定されているとのこと(写真は最上位のスピーカーケーブル「Jorma Prime」)

ペナウデオの主なラインアップ

同社初の製品として登場したブックシェルフ型の「CHARISMA」(¥585,900/ペア)。このころからフィンランドパーチ材による美しいキャビネットが採用されている



SARA Sの原型となったブックシェルフ型モデル「CENYA」(¥577,500/ペア)。リフレックス・パイプなどに新たな改良と再調整が施されている



1999
若きスピーカーデザイナーであるサミ・ペンテイヤ氏により、フィンランドに設立

2002
「CHARISMA」, 「CHARM」を発表。世界進出を開始する

2003
「CHARISMA」が日本にも紹介され、各アワードを受賞するなど高い評価を獲得する

2004
側面にウーファーを配置した同社初の一体型3ウェイスピーカー「SERENADE」を発表

2011
ラスベガスのCESにてブックシェルフモデル「CENYA」を発表

2012
CENYAをさらに進化させたフロア型モデル「SARA S」を発表

感性豊かなエンジニアによる 若きスピーカーカーブブランド

Text by
井上千岳
Chitake Inoue

● ペナウデオならではの技術

デザインと音質を共立させたキャビネット構造

積層合板のキャビネットが目玉。フィンランド・パーチ材によるものだが、本来この素材は多くのスピーカーで使用されている。目が詰んで強度が高く、また響きが豊かだ。ペナウデオではこれを単なる板材とするのではなく、薄く削った木材を何重にも貼り合せて積層としたものを使用している。このため独特のデザインが生まれるわけだが、同時に1枚板よりもさらに共振の抑制に優れ、キャビネットとして理想的な構造が得られる。



PENAUDIO
CEO
Sami Penttilä 氏

● 開発者が語る

あえて2.5ウェイを採用した理由

SARA SはCENYAのフロアスタンド仕様として設計されました。2.5ウェイ設計にすることによって、単に低域を拡張するだけではなく、困難な100~300Hz帯域における指向性をコントロールすることが可能となりました。また、今回3ウェイ設計にしなかったのは理由があります。2組の同様のドライバーを使用することで、より少ない構成要素を維持でき、さらに位相の問題を回避できます。そして、なおかつ失うものは何もないということです。